

足立区議会議長 た だ 太 郎 様

足立区議会議員 4 3 番 渡辺 ひであき 印

一 般 質 問 通 告 書

今定例会に下記要旨の一般質問を行いたいのので、会議規則第 5 9 条第 2 項の規定により質問通告書を提出します。

記

行 政 区 分	質 問 の 要 旨
1 政策経営行政	1 公共について 初当選当時平成 7 年の頃は足立区のグランドデザインについて折々で触れてきた。それは足立区政に挑戦しようと考えた自分の思いの原点であったからである。 当時の足立区は残念ながらとにかくイメージが悪かった。今振り返れば様々要因はあるが、今ここで具体的にそれを示すことは控えたいと思う。 それらを踏まえ足立区のイメージアップを見据えたグランドデザイン施策が多かった。しかし、まだまだインフラ整備の延長線上にあるに過ぎなかった感が強かったように記憶している。 正に今とは隔世の感がある。そうしたことをふまえて、今回の一般質問では、単純に足立区議会議員の仕事とはという考えに至った。つまり今、足立区にお住いの各界各層、各年代の望んでいる足立区とは何だろうと、日常が戻ったからこそ日々の延長線上で確認作業をしなければならぬと考えている。 私たちの仕事の上では足立区民の目線、納税者の目線で何をチェックし何を提案し何をお知らせするべきか。原点に立ち返ってお示しする責任を強く感じる。 例えば、現下の物価高対策に対応するために足立区も様々な施策を展開しているが足立区民の方々の満足度はいかがか。 従って施策の内容はもとより、予算の規模感と経済効果を丁寧に説明できているか。 足立区という自治体として充分か不十分かの検証を各世代にできているか。 という一例をあげて考えてみても自分で納得が出来ない。 どんな施策、事業でも予算の範囲内でと簡単に納得して判断してこなかったかと自分に問うのである。
	2 月 1 4 日 午前・午後 8 時 4 5 分受付 質問時間 2 0 分

行政区分

質問の要旨

さて、最近包括予算制度という言葉が聞かなくなった。導入当時はかなり脚光を浴びて多くの自治体、議会が視察に来られた。この制度の最大の良さは各部、課に「お金をあげるから、自分たちの自分たちで組んでください。」というものであった。正に画期的で、それぞれの部、課は戸惑いながらも活気に満ちていたように感じている。

複線型人事制度という言葉も消えてしまった。この制度のメリット、デメリットについてここで触れないが、「キャリア志向」「適正」「職群」の設定は縦型だけの行政にはよい風を取り入れたと感じた。なぜ、象徴的に使われた言葉が謳われなくなったのか。

どんな施策、事業についても成功、失敗がある。当たり前のことである。大切なのは成功も失敗も他に問う姿勢なのではないだろうか。このような考え方のもと足立区民の皆様には足立区政をどの様に伝えていくのか。今、足立区行政に問うていくことは何か。極めてシンプルに思う。

そこで、時に質疑内容に加えてきた「公共」について問うていきたい。

最近、近藤区長は「やりたいことが叶うまち」の形容として国連のSDGsの考え方の基本にあるウェルビーイングという言葉を象徴的に使われている。大きな意図があるのだと思う。

私も、とても魅力的なことだと思う。そして、試験的な事業の中で、その発露を感じる。

区長は公共の場、パブリックスペースの提供の工夫で潜在的な公共の担い手を発掘できることに手ごたえを感じておられるのではないだろうか。

私は以前「杉並大学」の取り組みを例示した。退職された方のスキルをどの様に行政や地域で活用することが出来るかというものである。このことを形はどうあれ是非とも導入いただきたい。その対極が「あやセンター ぐるぐる」の取り組みである。現役世代に行政の担い手として参加していただく最良の方法となっている。仕事と生きがいの両立、正に「やりたいことが叶うまち。」である。

さて一方、やりたいことがない、何か行動したいが「それが何か分からない。」方々が大多数なのではないだろうか。

そのことにどのように寄り添っていくのかというテーマに至ってこそ自治体の完成形に向かっていける。

コロナで失われた時間はあまりにも大きい。

当たり前という尺度をどこで測るか、どう考えるか。

不登校、引きこもりが大きな問題であるように社会への参加をどの

	4 3 番 渡辺 ひであき
行 政 区 分	質 問 の 要 旨
	様に考えて受け止めるのかも極めて大切な課題である。 折も折、基本計画審議会の議論、答申を経てから新たな基本計画がスタートする。 近藤区長は、「令和七年度は新しい基本計画がスタートする。大きな節目の年になる。基本計画は、教育、福祉、まちづくりなど様々な分野別計画の大元となる計画で、この基本計画から各個別計画へと派生していくので正に扇の要の計画です。令和 14 年足立区制 100 年に向けて、どんな足立区にしていくのかという羅針盤、航海図です。」と多くの場面で発言発信されている。 さて、そこで足立区民の皆様にあらためて公共と、その費用についてお示しすることは足立区政への長期的なご理解につながると考える。また足立区に住もう住みたいと選んでくださる方々への方策になると考える。納税、社会負担の対価、より具体的にお示ししてご理解ご協力を賜りたい。そこで質問する。 1, 公共、足立区政の担い手の中心は町会・自治会であることは論を待たない。しかし、町会・自治会加入率の低下が深刻である。この点については行政の責任の限界を超えていると私も思う。しかし手をこまねていることは出来ない。そこで足立区側から町会・自治会へ依頼している事業の更なる精査を行って町会・自治会の負担軽減と行政や民間で引き取る事業を洗い出すことが肝要と考える。区の見解を求める。 2, マンションの建設ラッシュが続いている。特に千住地域は中規模マンションや大規模開発が同時進行している。当該町会の役員の方々から町会加入の苦勞話を伺う。新たな公共の担い手となりうる新住民の方々に町会・自治会へ是非とも加入して頂きたい。行政としての支援について答弁を求める。 3, 来年度一般会計予算案の総額は約 3,473 億円と過去最高となった。公共を維持発展するために積み上げられた予算案である。その足立区民一人当たりの予算額は幾らか。10 年 20 年前との比較も含めて答弁を求める。 4, これらは公共の平等性をご理解いただく上で分かりやすい数字となる。年代別の平等をどの様に担保すべきと考えるか答弁を求める。 5, 児童生徒に対する足立区政や税金の使われ方、公共などについての教育は自分たちの住む足立区に対する愛着と誇りを育むために欠かせない。これまでの取り組みと今後の課題について答

	4 3 番 渡辺 ひであき
行 政 区 分	質 問 の 要 旨
2 都市建設行政	弁を求める。 6, 公共施設の新築、改築、長寿命化についても足立区民の皆様 に丁寧な説明、報告、意見の集約などが重要である。特に学校な どの教育施設は新築との差異について当たり前ではあるが多く のご意見がある。従って総工費や今後の教育施設更新の計画の公 表などきめ細やかな説明が望まれる。また間もなくスタートする 「すこやかプラザ あだち」の総工費や規模感の提示は区民の皆 さまに公共施設の必要性や税の投入に対する理解を深めて頂く 絶好の機会と考える。区の見解を求める。 つまり、こうした意識のもと議会と一緒に足立区政を進展さ せていく弛まぬ努力の先に本当の意味で足立区民の皆様に誇りをも って住み続けていただくことが出来ると考える。そして、これらの説 明責任と施策の優先順位は納税される区民の皆様への誠意でないか。 7, その方策について答弁を求める。 8, 災害対策も公共の理解の先に成立すると考える。防災戦略課 新設の意味を分かりやすく説明されたい。答弁を求める。 2 千住のまちづくりについて 次に千住のまちづくりについて質問する。 千住は今年開宿400年を迎える。更に「千住神社」は10年ぶり の大祭を迎える。足立区の扇の要である「千住」は先日もNHKの新 日本風土記で取り上げられたように大変注目されている。開発もいた るところで進行、計画されている。 一方、そのために空き家が目立つことは地域の不安材料となってい る。まちの変貌は土地の有効利用や災害対策に大きく寄与する。だが、 その過程で一時半面的作用をもたらす。行政需要の変化もしっかりと 予見する必要がある。千寿常東小学校、千寿第八小学校の建て替えな ど、正に100年先の「千住」を見据えたものにしていかなければなら ない。そこで質問する。 1, 言うまでもなく「千住」の町の変化と同時進行しなければなら ないことは災害対策に他ならない。これまでも何度も指摘して きたように、特に「北千住駅」周辺の災害対策については緻密さ が要求される。その後「北千住ルール」は、どの様に進化してい るのか答弁を求める。 2, 千住の開発計画について噂話が絶えない。その噂の発信源は ともかく地域にとって正確な情報発信をしていかなければなら

	4 3 番 渡辺 ひであき
行 政 区 分	質 問 の 要 旨
	ない。確認の意味で、今現在、千住地域で計画されている開発計画について答弁を求める。 3, これらの進捗と共にインフラの更新も課題となる。八潮市の道路陥没も誠にづらい事故となってしまったように千住三丁目でも過去に陥没事故が起こった。当時から下水道管の陶管による原因が叫ばれ足立区は調査を行ってきた。まず、その進捗についてあらためてお示し頂きたい。 4, 先程述べたように「千寿常東小学校」と「千寿第八小学校」の建て替えがある。「千寿常東小学校」は北千住駅至近の立地であることと北千住駅東口再開発事業と合わせて考える必要がある。折々で触れているが、現在までの構想について答弁を求める。 5, 千寿第八小学校については、現在進行中の千住大川端地区開発計画と合わせて考える必要がある。どのように整合を図っていくのか答弁を求める。 6, 次に、千住大川端開発事業について質問する。まず、全体計画の概要とスケジュールについてお示し頂きたい。次に、どのような都市機能を有するのか答弁を求める。次に、どのような防災機能を有するのか、近隣地域との連携も含めて答弁を求める。 7, 近隣の方々が、この計画に対して請願を提出され「エリアデザイン調査特別委員会」において全会一致で採択された。その内容は1, 京成関屋、東武牛田駅周辺街づくりについて広域的なビジョンを示すこと。2, 周辺の一体的な街づくりの可能性について検討を進めること。3, 開発に伴い、上記2駅の利用者増加の影響を鑑み駅周辺の環境整備を両鉄道事業者に足立区として強く求めるというものである。足立区のこれまでの対応について答弁を求める。 8, 今、京成関屋駅、東武牛田駅の利用者増加について触れた。私も近隣に住んでいることもあり毎日の様に話題になる。特に両駅共にホーム幅が狭い事実があり今の通勤通学時間帯でも不安な時がある。このことについては「エリアデザイン調査特別委員会」で各委員から指摘がある。委員会では、その影響について現況で問題がないと受け取れる答弁が繰り返されているが可能な限りの対策が開発の進捗と共に行われるべきと考える。答弁を求める。 9, 次に京成本線橋梁架け替え事業について質問する。このことについても数年前から足立区側に事業者ではないが近隣に対して事業の必要性などをお示しすることを求めてきた。足立区が努

	4 3 番 渡辺 ひであき
行 政 区 分	質 問 の 要 旨
	力を続けていることに感謝している。さて事業の進捗と共に幾つかの課題も浮き彫りになってきた。まずは工事の安全性の確保である。それは、昨年 12 月 12 日に京成本線の鉄骨が 11 メートルにわたり落下したことも大きな要因である。京成電鉄から事故の原因や、今後の対策など、どの様な報告を受けたのか答弁を求める。また、橋梁架け替え事業での安全確保をどう担保するのか答弁を求める。このことに伴い京成関屋駅のホームが一時移動すると聞いている。スケジュールについて答弁を求める。 1 0, これら「京成本線橋梁架け替え事業」については千住大川端事業の説明会の際にできる限りの情報提供をするべきと考える。答弁を求める。 1 1, 次に、柳原、日ノ出町付近の防災性向上の取り組みについて質問する。当該地域は道幅が極端に狭く、木造密集住宅が多く存在する。従って 20 数年前の柳原での火災は大きな被害となった。足立区も手をこまねているわけではなく町に入りだしている。ただ、都市計画道路と牛田堀の占有などの問題も存在している。足立区の今後の取り組み、特に都市計画道路については実現性も含めて検討すべきと考える。答弁を求める。 1 2, 最後に千住の大踏切解消について質問する。「開かずの踏切」問題については何十年も時折議論の俎上に上っては消えてきた。千住のポテンシャルを最大限に引き上げられるとすれば大踏切の解消は必須である。地震や水害時や火災などの防災性向上にも計り知れない効果がある。しかし、最大の障害は費用に他ならないが最も現実的な手法は道路の地下化である。区の見解を求める。